

令和5年度 かながわティーチャーズカレッジ

# COLLEGE NEWS

カレッジニュース



令和5年9月3日 発行  
神奈川県立総合教育センター  
かながわティーチャーズカレッジ事務局  
(教育人材育成課キャリア開発班)

## 第2回 かながわ教育学講座

令和5年8月20日、第2回かながわ教育学講座が開催されました。第2回教育学講座のテーマは「神奈川県の求める教職員像」です。神奈川県立総合教育センター 蘇武教育事業部長による講義「神奈川県の求める教職員像」のあと、各グループで「めざすべき教職員像」について協議が行われました。

## 講義 「神奈川県の求める教職員像」

講義では、講師の教員時代のエピソードや学校現場で感じたことから始まり、イントロダクションとして国の求める教職員像について、そして「かながわ教育ビジョン」の概要、めざすべき教職員像などについてお話がありました。

神奈川県の教育施策の総合的な指針である「かながわ教育ビジョン」の概要では、その基本理念や神奈川県が子どもたちに「たくましく生きる力」「思いやる力」「社会とかかわる力」を育成することを目指していること、学校を「子ども一人ひとりの個性と能力を大切にし、ともに成長する場」と捉え、指導力のある教職員の確保・育成を目指していることなどが説明されました。

講義の中では、「一生涯の中で児童や生徒たちはどのような成長段階にあるのか」「わかりやすい授業とは何か」そして、「教職員が学び続けることはなぜ大事なのか」などの問いが投げかけられました。



### 「教職員が学び続けることはなぜ大事なのか」

～ 蘇武教育事業部長の考え～

- 完璧な人間はいない、自分の価値観(ものさし)を増やせばより多くの子ども、その子の背景を理解し、救うことができる。
- 子どもは教師の姿勢を感じ取る。学び続ける大人の姿を子どもたちに見せる。



かながわ教育ビジョン

神奈川県 HP より  
ダウンロードできます

あなたの考えや他の受講者の  
考えはどうか？



## 受講者のワークシートより

### 《オープンコース》

今回の講座では、目指すべき教職員像を考え、他の人の意見を知る中で、すべて今から行動すべきことがあるということ学んだ。ボランティアに行ったり、海外に行ったりすることで経験、考え方を広げ、自分から失敗を恐れずに挑戦していくことで、見えなかったことも見えるようになると思った。これから、理想の教師になっていくためには、まず、自分からいろいろなことを考え、実際に体験し、自分の中に引き出しを多く持つことができるようにしていきたい。

### 《チャレンジコース小学校》

学校勤務を続けてきて、多様な価値観をもつ人達に出会ってきた。自分に合う価値観はすぐに受け入れやすいが、自分とは合わないものに対しては心のどこかで拒絶していた。ただ、今日の講座であったように、多様な背景、個性がある児童・保護者・同僚・地域の方々などと、協働していくためには、自分とは違う価値観も受け止め、受け入れていく必要があると分かった。私自身、全く完璧ではないのに、自分のものさしで物事を測っていたように思う。これからは、多様な価値観を認め、たくさんのもものさしがもてるよう心掛けていきたい。

### 《チャレンジコース特別支援学校》

今回の講座で、「教師が子どもを信じる気持ちを常に持ち続ける」という言葉がとても印象に残りました。小学校のボランティアに行った際に、子どもは時に自分の想像を超えるような行動をする事があり、その度に裏切られたという気持ちになる事が多かったのですが、今回の話を聞いて、人格形成の大切な時期に教師側が子どもに対して一歩踏み出して、信頼する姿を見せる、子どもの手本になることが大切な事だと思ったので、今後心がけていきたいと思いました。

### 《チャレンジコース中学校英語又は高等学校英語》

今日の講義は非常に学びが多かったです。講義はもちろんのこと、グループディスカッションでも多くの意見を知ることができました。その上で、教師に求められる素養の多さに正直圧倒されて不安になりました。しかしながら、この不安こそ学び続ける力の糧になるのだとお話に勇気付けられました。これから諦めずに学び続けることを第一義にしてやっていけたらと思います。

### 《チャレンジコース中学校国語又は高等学校国語》

目指したい教師像はイメージとしては頭にありましたが、本日の講義によってまず生徒をどう育てていきたいかが前提となるということ改めて理解することができました。また、自分の中で捉えられずに膨れていた教師のイメージを具体的に明らかにすることができました。加えて私は教師といっても生徒を見る目は自分一人だけではないことを忘れていました。多様な生徒相手なので一人では解決できないことが数多くあると思います。それに対してチームで対応するというのも頭に入れて、今後こういった教師を目指していくのかを探求し続けたいと思います。